



男女共同参画兄弟都市交流事業

地域イキイキ! 地域で活躍する女性たち

ブラッシュアップセミナーは、男女共同参画を推進する方々のさらなる向上を図るために、平成19年度より開催しています。

今年度は男女共同参画社会基本法制定10周年を記念し、本市兄弟都市である宮崎県延岡市から、市長のパートナー首藤明子さんを講師に迎え、本市で活躍されているお二人との対談を開催しました。

講師

首藤 明子 (すどう あきこ) さん

首藤正治延岡市長のパートナー。
現在、株式会社スドーの取締役を務める傍ら、国際ソロプチミスト延岡会員、赤十字奉仕団、NPO法人天下一市民交流機構実行委員として、社会的活動の場で幅広く活躍している。

志賀 としえ (しが としえ) さん

福島県骨髄バンク推進連絡協議会いわき支部運営委員。
骨髄移植を受けて元気になった自らの体験を話しながら、かけがえのない「命の尊さ」を感じてもらうため、各地のシンポジウムや小・中・高校などで講演活動を行っている。

コーディネーター

橘 あすか (たちばな あすか) さん

株式会社福島インフォメーションリサーチ&マネジメント
代表取締役。
平成20年にいわき市の創業支援を受けながらアンケート調査会社を設立し、現在に至る。



首藤 「市長の妻」という立場は、人生の一場面にすぎず、常に自分というものを失いたくないという気持ちで活動していますが、その原動力のひとつとなるのが生きているということだと思います。赤十字奉仕団や新能(たきぎのう)の天下一(てんがいち)市民交流機構の活動をしていると、「命ありき」の大切さを感じ、さまざまな面で人を支えていこうと考えています。

また、市政の支援により市民協働のまちづくりセンターを設置し、いいまちづくりの足掛かりとしています。延岡市は、ボランティアの力が日本一で、災害時の流木撤去を手伝うために何千人もの人が集まりました。ボランティアに対して誇りを持ち、「できる時に、できる事を、できる範囲で」という自然体で取り組んでいます。

志賀 「苦しみを乗り越えれば、自分の強さになる」という言葉を励みにして白血病と向き合ってきました。しかし、今の若い人が、命の重さを分かっていないと感じるようになり、小・中・高生に病の体験を話して命の尊さを伝えています。数年前、いつ死んでもいいと思っていた高校

生から手紙が届きました。それは、私の話を聞いて気持ちが変わり、18歳になったらドナー登録をしたいというもので、心に響きました。

これからも、家庭や地域で命の尊さを話し合うことで、「命が輝くいわき」を育みたいと思っています。

橘 地域づくりに関し、県内に閉塞感が漂うとの声を耳にします。団体の高齢化が進み、不況の影響で資金が足りない等、活動が難しい状況にあるため、地域づくりをバックアップする行政の関わりが重要だと思われます。

また、今回、お二人の共通部分として、活動の根底に命の大切さがあることを感じました。



未来館特別講演

2009年6月11日(木) / 福島県男女共生センター

今だからこそワーク・ライフ・バランス 仕事に頑張りすぎる皆さんへ贈ります

講師：安藤 哲也 (あんどう てつや) さん

[NPO法人ファザリング・ジャパン]

男性の子育ての悩みとして、仕事が忙しく育児時間がとれない、子どもとの向き合い方や生まれてからの夫婦関係の悪化をあげ、その影響として、子どもの自己肯定感・自尊心が育たないことなどを指摘しました。

また、父親が育児に関わる利点と

して、子どもに言葉や社会性が早く身につくことや、子どもの手本になることを述べ、「パパ力」(妻を支えパパ友を持つ)のある、「笑顔のお父さん」が増えれば、社会が変わっていくと述べました。

11月23日(月)いわき市で講演予定!!